

キシラデコールと

「伝統」

設計者に聞く、木質建築での保護塗料の活用法

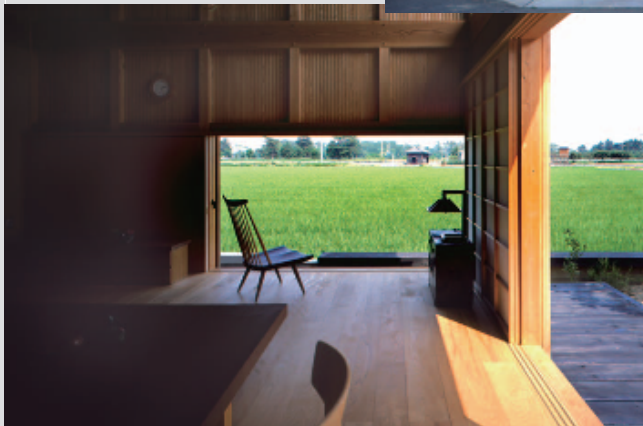
3

焼きスギの伝統を、キシラデコールで表現

焼き板と黒漆喰でつくる黒い民家がもとは多かったと言われる岡山。地域の伝統に目を向けながらも、よく利用する焼きスギをあえて避けて新しい材の使い方を試みたのが、設計者の自邸でもある「黒の家」だ。「伝統」を表現するのは、通常のスギ板に塗装したキシラデコールのジェットブラックとシルバグレイ。地域の伝統にヒントを得た試みを、どう総括するのか。設計者の神家昭雄氏に聞いた。

西側の外観。外壁にはスギ板を用いて、キシラデコールのジェットブラックとシルバグレイを混ぜたものを塗った。配合を変えたものを6種類ほど作って、それぞれ板1枚分に塗って、見比べて好みの配合を決めた。正面に見える開口は玄關土間の部分で、その向こうには敷地東側に広がる田んぼを見通すことができる (写真：大橋 富夫)

名称 ● 黒の家 所在地 ● 岡山県岡山市 用途 ● 専用住宅 家族構成 ● 夫婦＋子ども2人 敷地面積 ● 249.00㎡ 建築面積 ● 92.77㎡ 延べ床面積 ● 135.19㎡ 構造 ● 階数 ● 木造・地上2階建て 竣工 ● 2004年5月 設計 ● 神家昭雄建築研究室 施工 ● あらい建設



ダイニングからリビング越しに、敷地東側に広がる田んぼを眺める。リビングは吹き抜けに高さを抑えた開口。座って外に目をやると、近景には水田、中景には正面にあるゴルフ場の木々、遠景には山並み、という奥行きのある風景を楽しめる

田んぼの緑と外壁の黒とが美しい取り合わせを見せています。神家 ● 田んぼは日本を代表する風景だと思えます。普遍的な風景の中にこそ、美しさがあります。これを建築の中に眺めとして取り込みたいと考えました。それで、わざわざ田んぼの見える土地を探して買い求めたほどです。外壁の「黒」は、焼き板と黒い漆喰とでつくる黒い民家がこの辺りに多

かったことにちなんでいます。それに、日本人の美意識の中には、黒という色が古くから位置付けられていると思います。「侘(わ)び」「寂(さ)び」「粋(いき)」という美意識にも通じる、静かな存在感のある「沈黙の色」とも言えるのではないのでしょうか。その「伝統」を、焼き板ではなく、キシラデコールで表現しました。神家 ● これまで焼きスギを使ってきた

のは、耐久性が優れているからです。焼くことで表面が炭化し安定した材料になる。昔の人の知恵です。「黒の家」では、いつも使っている焼きスギをあえて避けて、新しい材の使い方を試みようと思いました。伝統的なものからヒントを得て、新しい試みに挑戦してみました。

ただ、材としては木を使いたいし、耐久性も必要になる。そうすると、木を塗装するほかにあります。それで、外壁によく使うキシラデコールをここで利用することになりました。もう何十年と使ってきただけに、信頼できる、という安心感もありました。

目板の影を外壁の表情に生かしたい、という思いもありました。焼きスギの場合には、規格サイズとの関係で目板の間隔が二十数cmも開いてしまいます。しかも、その間隔に比べて目板に厚みがないので、影が生まれません。外壁の表情はどうしても、単調になりがちです。

ところが、普通のスギ板に塗装を施すのであれば、焼きスギの規格から外

れるので、この間隔をもっと狭くすることができます。「黒の家」では間隔を13cmに狭めることで、目板の影が生きるようにしました。

「伝統」の黒を表現するうえで、なにもに留意しましたか。神家 ● 一口に「黒」と言っても、範囲は広い。焼きスギの場合には、表面は真っ黒に見えますが、よく見ると、鈍く光っています。そこで、ジェットブラックにシルバグレイを少し混ぜて、多少鈍く光るような色を目指しました。

完成から2年半近くになります。出来栄はいかがですか。神家 ● 質感はどうしても、焼きスギとは少し異なります。しかし一方で、目板の影はうまく生きて、外壁の表情を豊かにしていると思います。

いま思うに、材の表面を削らないで塗装を施せばよかった。それほど意識



木とともに生きる。【キシラデコール】
XYLADECOR
おかげさまで35周年



神家 昭雄氏

かみや・あきお。1953年岡山市生まれ。74年国立石工業高等学校建築学科卒業。87年PIUS建築研究所設立。94年神家昭雄建築研究室に改称。個人住宅の設計・監理に携わる。事務所を置く岡山では、県内で建築設計事務所を主宰する仲間5人と「古民家再生工房」を組織し、古民家の再生にも取り組んでいる。1998年日本建築学会作品選奨受賞、1999年BELCA賞、日本建築学会業績賞受賞、2002年グッドデザイン賞受賞、2005年「第2回木質建築空間デザインコンテスト」住宅部門賞受賞

しないで、ただ水の切れがよくなるのではないかと考えて材の表面を削ってからキシラデコールを塗りましたが、削らないで塗ったほうが木の質感を生かすように思いました。

「伝統」を表現するうえで、今後なにを求めますか。

神家 ● キシラデコールが優れているのは、色を調合して好みの色を作り出すことができる点です。弁柄(べんがら)のような伝統の色もうまく表現できるようになれば、いいですね。

キシラデコールシリーズ
安心の住空間づくりに
内装専用水性ステイン
Xyladecor Consolan
イデコ

神家氏が選んだのは、キシラデコール「ジェットブラック」と「シルバグレイ」。2色を混ぜることで、鈍く光る漆喰風の黒を表現できます。木目の凹凸で現れる影を生かすことで焼き杉にも似た風合いを出しながら、優れた耐候性で木肌を保護します。

【お問い合わせ先】

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
総務部 ICI Paints Eco Group

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーノックス備後町ビル TEL. 06-6268-3428 FAX. 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパンスN館9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9862
www.jechem.co.jp